

目次

口絵

ごあいさつ

監修に当たって

例言

第一篇 第三回特別展 新選組 戊辰戦争のなかで

はじめに

I 戊辰戦争のなかで

第一章 京都から転進する

第一節 データから見える新選組の変質

第二節 鳥羽・伏見の戦

第三節 品川宿営、郷党と再会

第四節 旧幕府幹部の思惑

第二章 日野宿農民兵隊

第一節 江川代官所の指示

第二節 鉄砲隊の編成と訓練

第三節 慶応二年武州一揆で出動

第三章 甲陽鎮撫隊へ

第一節 新選組の再編と郷党の対応

第二節 隊長大久保剛、そして内藤隼人

第三節 日野宿と春日隊

第四節 柏尾の敗戦

第五節 日野宿の混乱、新政府軍の進軍

第四章 北関東の戦争

第一節 五兵衛新田の屯所

第二節 近藤勇の逮捕・処刑

第三節 宇都宮戦争

第五章 会津戦争

第一節 奥羽越列藩同盟のなかで

第二節 長岡城の攻防戦

第三節 隊長山口二郎（斎藤一）立つ

第四節 白河戦争、母成峠の敗走

第五節 土方歳三、仙台で総督に推挙される

第六章 箱館戦争

第一節 仙台から箱館へ

第二節 土方歳三の任務

第三節 箱館臨時政府の樹立

第四節 歳三、箱館に散る

第五節 隊長相馬主殿、降伏する

第七章 家族・親戚、多摩郷党の思い

第一節 日記に見える多摩の動向

第二節 「御一新」のはざままで

第三節 もたらされた戦況の便り

おわりに

II 新選組のその後

第一章 データによる実像

第二章 江戸警邏から庄内へ

第三章 松ヶ岡の開墾事業

第四章 あいつく脱走と離脱

第三回特別展「新選組 戊辰戦争のなかで」作曲のスタンス 藤田 勉

馬場 弘融 i

宮地 正人 ii

例言 iii

1

3

4

4

4

4

9

4

10

11

11

11

11

11

11

11

11

12

11

15

15

15

16

16

17

17

18

18

20

20

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

21

展示品目録

附 新選組・新徴組史料を現代文で読む……………61

1 日野宿農兵鉄砲隊、武州一揆鎮圧に出動……………61

(1) 慶応二年(一八六六年)六月 『佐藤彦五郎日記』……………61

(2) 慶応二年(一八六六年)六月 『河野清助日記』……………61

2 三田薩摩藩邸の焼き討ち事件……………62

慶応四年(一八六八年)正月二日 組頭・小姓頭より申達写……………62

3 戊辰戦争の風説……………63

(1) 慶応三年(一八六七年)十二月 『上書・建白書並び風説書留』……………63

(2) 慶応四年(一八六八年)正月十一日 十一屋庄左衛門書状写……………63

(3) 慶応四年(一八六七年)正月九日 鳥羽戦争につき中原直介申口……………64

(4) 慶応四年(一八六八年)四月朔日 『戊辰春風説』……………64

4 三徳蠟の引札……………64

慶応四年(一八六八年)四月 三徳蠟引札写……………64

5 偽官軍の周辺……………65

(1) 慶応四年(一八六八年)正月十一日 総裁宮御沙汰書……………65

(2) 慶応四年(一八六八年)正月 太政官議定・参与被仰出写 滋野井侍従・綾小路前侍従……………65

(3) 慶応四年(一八六八年)六月 嘉彰親王判物 鈴木三樹三郎宛……………66

(4) 慶応四年(一八六八年)正月 東山道鎮撫總督執事高札 東山道諸国宿々村々役人中宛……………66

(5) 慶応四年(一八六八年)正月二十一日 竹沢寛三郎高札……………66

6 柏尾戦争の古記録……………66

慶応四年(一八六八年)三月四〜九日 『柏尾戦争記』……………66

7 甲陽鎮撫隊、柏尾の敗戦……………68

(1) 慶応四年(一八六八年)三月六日 甲州戦争見聞の次第……………68

(2) 慶応四年(一八六八年)三月朔〜六日 『佐藤彦五郎日記』……………69

(3) 慶応四年(一八六八年)三月二〜九日 『河野清助日記』……………69

8 近藤勇の最期……………70

慶応四年(一八六八年)四月 『横倉喜三次伝』……………70

9 懇ろに弔われた近藤勇……………71

(1) 慶応四年(一八六八年)四月二十五日 首実検二唱フル文……………71

(2) 慶応四年(一八六八年)閏四月十八日 岡嶋善兵衛書状 東山道御総督府御本陣横倉喜三次宛……………71

(3) 慶応四年(一八六八年)閏四月二十三日 井口市左衛門書状 横倉(喜三次)御氏宛……………71

(4) 慶応四年(一八六八年)四月二十六日 東山道総督府軍監宇田栗園の賞詩……………72

10 近藤勇、五兵衛新田から移動を画策……………72

(1) 慶応四年(一八六八年)三月二十四日 佐々井半十郎書状 松本良順宛……………72

(2) 慶応四年(一八六八年)三月二十九日 佐々井半十郎書状 大久保大和宛……………72

11 白河・会津の攻防戦……………73

(1) 慶応四年(一八六八年)八月二十一日 土方歳三書状 東方面鎮將内藤・小原宛……………73

(2) 慶応四年(一八六八年)六〜八月 『荒井治良右衛門日記』……………73

12 榎本武揚、脱走の真意を勝安房らへ託す……………73

慶応四年(一八六八年)八月十九日 榎本釜次郎(武揚)書状 勝安房・山岡鉄太郎・関口良輔宛……………73

13 箱館で入隊した長岡出身の新選組隊士……………74

明治二年(一八六九年)十一月二十一日 『長岡藩東京藩邸公用人日誌』……………74

14 箱館臨時政府の閣僚・役職名簿……………74

明治元年(一八六八年)十二月十五日・同一年正月 『贈友談話』……………74

15 依田学海と新選組……………75

慶応四年(一八六八年)正月十六日 『学海日録』十……………75

慶応四年(一八六八年)正月二十日 『学海日録』十……………76

慶応四年(一八六八年)閏四月十日 『学海日録』十一……………76

明治五年(一八七二年)二月二十一日 『学海日録』十五……………76

附	維新期の摺物を読む	77
1	姉さん本庄かへ かへうた	77
2	春さめ つくりかへ	77
3	御所車 かへ歌	78
4	御代泰平 新鳥おひ かへ歌	78
5	節分	79
6	柳樽	79
7	町中大はやり よかたいぶし	78

第二篇	特別寄稿	81
相馬主殿回想録「贈友談話」覚書	宮地 正人	83
はじめに	83	
第一章	相馬主殿とは何者か	83
第二章	笠間藩脱藩と新撰組入隊	83
第三章	近藤勇処刑と相馬主殿	84
第四章	奥州への脱出と平潟口の防禦戦	85
第五章	蝦夷地行きと箱館戦争	86
第六章	いつから隊長となったのか	87
第七章	明治二年三月五月の相馬主殿	87
第八章	相馬主殿のその後	89
おわりに	89	

新撰組と戊辰戦争	保谷 徹	91
はじめに	91	
第一章	戊辰戦争と軍事革命	91
第一節	施条銃段階の軍事力	92
第二節	幕府の直属軍改革	92

第三節	薩長の改革	92
第四節	統一軍制の構想	93
第二章	新撰組と鳥羽・伏見の戦い	93
第一節	新撰組の銃隊訓練	93
第二節	鳥羽・伏見戦争の新撰組	94
第三節	軍事動員の差異	95
第三章	勝沼戦争における新撰組	95
第一節	甲州への進発	95
第二節	戦争の経過	96
第三節	柏尾坂の戦い	97
第四節	新撰組の装備といでたち	98
第五節	小荷駄隊と軍夫徴発	99
おわりに	―転戦する新撰組―	100

第三篇	第三回特別展 新撰組 戊辰戦争のなかで 史料調査報告	101
第一章	新撰組・新徴組関係史料集	103
第一節	鶴岡市郷土資料館所蔵文書	103
1	文久三年(一八六三年)『操兵練志録』陽十二 摘録	103
2	元治元年(一八六四年)『操兵練志録』陽十三 摘録	105
3	元治元年(一八六八年)『操兵練志録』陽十四 摘録	106
4	慶応元年(一八六五年)〜同四年(一八六八年)『操兵練志録』陽十五 摘録	115
第二節	柳内良一氏所蔵文書	117
	慶応三年(一八六七年)十二月『上書・建白書並び風説書留』摘録	117
第三節	田中氏所蔵文書	118
	慶応四年(一八六八年)正月『即今形勢風聞書』摘録	118
第四節	某個人所蔵文書	120
	安政二年(一八五五年)八月吉辰日『伊庭想太郎親類書・遠類書』	120

	第五節 山梨県立博物館「甲州文庫」所蔵文書……………	123
	慶応四年(一八六八年)三月 柏尾戦争記写……………	123
	第六節 日野市所蔵 黒田清隆文書……………	125
1	慶応四年(一八六八年)二月九日 奥羽鎮撫使参謀辞令書 黒田了介宛(目録番号1)……………	125
2	明治元年(一八六八年)十月 庄内凱旋の節明治天皇親授賞賜目録 黒田了介宛(目録番号2)……………	123
3	明治二年(一八六九年)三月 鹿兒島藩参政辞令書 黒田了介宛(目録番号3)……………	125
4	明治二年(一八六九年)八月 賞賜沙汰書 薩州兵隊宛(目録番号4)……………	125
5	明治二年(一八六九年)八月 外務大丞太政官辞令書 黒田了介宛(目録番号5)……………	123
6	明治二年(一八六九年)九月 箱館戦功賞典取調につき太政官被仰付書 黒田外務権大丞宛(目録番号6)……………	125
7	明治二年(一八六九年)九月 七百石賞典禄下賜之太政官沙汰書 黒田了介宛(目録番号7)……………	125
8	明治二年(一八六九年)十一月 兵部大丞太政官辞令書 黒田外務権大丞宛(目録番号8)……………	126
9	明治三年(一八七〇年)四月 従五位太政官位記黒田兵部大丞宛(目録番号9)……………	126
10	明治三年(一八七〇年)四月 官禄半分献上につき 黒田兵部大丞清隆上申書 弁官宛(目録番号10)……………	126
11	明治三年(一八七〇年)五月九日 従四位太政官位記 黒田開拓次官宛(目録番号11)……………	126
12	明治三年(一八七〇年)十一月 欧羅巴・支那派遣太政官辞令書 黒田開拓次官宛(目録番号12)……………	126
13	明治三年(一八七〇年)十一月 外遊につき三條実美より心得書 黒田了介宛(目録番号13)……………	126
14	明治十年(一八七七年)二月 鹿兒島派遣につき太政官より心得書 黒田中将宛(目録番号14)……………	127
15	明治十年(一八七七年)四月二十二日 征討軍免官行在所太政官辞令書 陸軍中将黒田清隆宛(目録番号15)……………	127
16	明治十年(一八七七年)六月八日 安田開拓使権大書記官より進達書類目録長官宛(目録番号16)……………	127
17	明治十年(一八七七年)六月二十三日 京都派遣太政官辞令書 参議黒田清隆宛(目録番号17)……………	127
18	明治十年(一八七七年)七月二十一日 鹿兒島派遣行在所太政官辞令 参議黒田清隆(目録番号18)……………	127
19	明治十年(一八七七年)十二月六日 年金七百四十円下賜行在所太政官辞令書 陸軍中将黒田清隆宛(目録番号19)……………	127
20	明治十四年(一八八一年)六月十六日 巡幸供奉太政官辞令書 参議黒田清隆宛(目録番号20-1)……………	128
21	明治十四年(一八八四年)十一月九日 巡幸供奉慰勞金五百円下賜につき徳大寺宮内卿申入書 黒田参議宛(目録番号20-2)……………	128
22	明治二十一年(一八八八年)四月三十日 任内閣総理大臣辞令書 農商務大臣伯爵黒田清隆宛(目録番号21)……………	128
23	明治二十二年(一八八九年)十月二十五日 依願免内閣総理大臣辞令書 内閣総理大臣伯爵黒田清隆宛(目録番号22)……………	128
24	明治二十二年(一八八九年)十月 元勲優遇之詔勅書 枢密院顧問官伯爵黒田清隆宛(目録番号23)……………	128
25	明治二十四年(一八九一年)五月十九日 露国皇太子より午餐招待出席要請につき神戸発電報 西郷大臣・伊藤伯・黒田伯宛(目録番号24)……………	128
26	明治二十五年(一八九二年)十一月十一日 山田伯訃報につき黒田清隆書状案 伯爵伊藤首相宛(目録番号25-1)……………	128
27	明治二十五年(一八九二年)十一月十一日 山田伯訃報につき黒田清隆書状案 司法大臣山原伯・陸軍大臣大山伯宛(目録番号25-2・3)……………	129
28	明治二十五年(一八九二年)十一月十一日 山田伯訃報につき黒田清隆書状案 内務大臣井上伯宛(目録番号25-4)……………	129
29	明治二十七年(一八九四年) 黒田清隆作七言絶句「中秋」(目録番号26)……………	129
30	明治二十七年(一八九四年)九月十四日 伊藤首相所勞にて供奉不能電報 黒田通信大臣宛(目録番号27-1)……………	130

31	明治二十七年(一八九四年)九月十六日 伊藤首相全快電報 黒田通信大臣宛 (目録番号27-1-2).....	130
32	明治二十七年(一八九四年)九月 両院書記官広島派遣につき伊藤総理大臣書状 通信大臣宛 (目録番号27-2).....	130
33	明治二十七年(一八九四年)九月二十日 臨時議会につき伊藤首相電報 (目録番号27-3-1).....	130
34	明治二十七年(一八九四年)九月二十日 別紙電報翻訳につき首相秘書官花房直三郎書状 (目録番号27-3-2).....	131
35	明治二十七年(一八九四年)九月十六日より十八日黄海海戦経過報告書 (目録番号27-3-3).....	131
36	明治二十七年九月二十一日 首相宛答電同意につき法相芳川顕正書状 黒田大臣・井上大臣宛 (目録番号27-4-1).....	131
37	明治二十七年(一八九四年)九月二十一日 自分開封平射につき松永武吉書状 通信大臣 黒田伯爵御執事宛(目録番号27-4-2).....	132
38	明治二十七年(一八九四年)九月二十二日 別紙総理大臣電報につき内閣書記官書状 黒田 通信大臣宛(目録番号27-5).....	132
39	明治二十七年(一八九四年)九月二十一日 広島議会開会につき伊藤総理大臣電報 井上 内務大臣宛(目録番号27-5).....	132
40	明治二十七年(一八九四年)九月二十三日 別紙大蔵大臣電報につき内閣書記官花房 直三郎書状黒田通信大臣(目録番号27-6).....	132
41	明治二十七年(一八九四年)九月二十三日 臨時会召集詔勅副書につき総理大臣電報 通信大臣(目録番号27-7-1).....	132
42	明治二十七年九月二十三日 別紙電報につき内閣書記官花房直三郎書状 黒田通信大臣 (目録番号27-7-2).....	133
43	明治二十七年(一八九四年)十月七日 衆議院議員一覧表 松永武吉発信 通信大臣 黒田伯爵宛(目録番号27-8).....	133
44	明治二十七年(一八九四年)十月九日 司法大臣派遣につき伊藤総理大臣電報 黒田通信	
45	大臣宛(目録番号27-9-1).....	133
46	明治二十七年(一八九四年)十月九日 別紙電報到来につき内閣書記官花房直三郎書状 黒田通信大臣宛(目録番号27-9-2).....	133
47	明治二十七年(一八九四年)十月十二日 野村樞密顧問官広島出張につき内閣書記官花房 直三郎書状 黒田通信大臣宛(目録番号27-10).....	133
48	明治二十七年(一八九四年) 第七臨時議会議開院式勅語写(目録番号27-11).....	134
49	明治二十八年(一八九五年)八月二十日 旭日桐光大綬章勲記 樞密院議長伯爵黒田清隆宛 (目録番号28-1).....	134
50	明治二十八年八月二十日 勲一等旭日章選納領収書 賞勲局物品会計主務属近藤政長発 樞密院議長黒田清隆宛(目録番号28-2).....	134
51	明治二十八年(一八九五年)八月二十日 依勲功二万円下賜につき土方久元宮内大臣口達書 (目録番号29-1).....	134
52	明治二十八年(一八九五年)八月二十三日 過日御下命宮内大臣口達につき宮内省秘書官 長崎省吾書状 伯爵黒田樞密院議長宛(目録番号29-2).....	134
53	明治三十年(一八九七年)二月二十四日 除服出仕内閣辞令 樞密院議長伯爵黒田清隆宛 (目録番号30).....	135
54	年月日未詳 明宮殿下より茶器下賜につき明宮御用掛宮中顧問官土方久元申進書 内閣顧問 伯爵黒田清隆宛(目録番号31).....	135
55	明治二十九年(一八九六年)十二月二十三日 銀瓶下賜につき東宮大夫黒川直軌申進書 伯爵黒田清隆宛(目録番号32).....	135
56	明治三十三年(一九〇〇年)五月九日 皇太子殿下御慶事御酒肴料下賜につき宮内大臣 子爵田中光顕申進書 伯爵黒田清隆宛(目録番号33).....	135
57	年月日未詳 七言絶句二首(目録番号34).....	136
58	明治二十九年(一八九六年)十月十日 和歌一首(目録番号35).....	136
59	年未詳九月五日 御看病御見舞につき奈良原繁書状 黒田公宛(目録番号36).....	133
	明治十年(一八七七年)五月一日 昨年北海道産物献上につき桂宮家令宇田淵書状 黒田 開拓長官宛(目録番号37).....	136

第七節 日野市所蔵 相馬主殿（主計）『贈友談話』	137
第二章 新選組関係史料影印	145
相馬主殿（主計）『贈友談話』	145
英文目次	164

第一篇 第三回特別展 新選組 戊辰戦争のなかで